

新型コロナウイルス禍の経済指標からみえる課題

佐藤 正和

国際通貨基金（IMF）が 2021 年 7 月に公表した世界経済見通しの改訂によると、世界経済の成長率は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の打撃を受けた 2020 年から回復して、2021 年が +6.0%、2022 年が +4.9% となることが予測されている。2021 年の予測値自体は 2021 年 4 月公表時から変化していないものの、各国毎の成長率の内訳をみると、先進国を中心に上方修正される国がある一方で、新興国・発展途上国ではアジア地域の国などで下方修正されている。また、2022 年の世界経済の成長率の見通しは 4 月公表時から 0.5% 上方修正されているが、これは米国の追加的な財政支援策や先進国における医療面の取組の進展などで感染拡大による経済への打撃が緩和することが反映されている。

IMF の経済見通しによると、このような経済の回復の二極化が進む背景の 1 つに挙げられているのが、ワクチン接種の進捗の差異である。先進国ではワクチンの接種が進展して経済の正常化が進む一方、新興国・発展途上国では、ワクチンに容易にアクセスできずに感染の拡大や経済活動の抑制を余儀なくされている国も多い。また、もう 1 つの背景として指摘されているのが、政策支援の差異である。先進国では 2021 年以降も米国や欧州を中心に各国で大規模な財政支援策が計画されているが、新興国・発展途上国では多くの国がコロナ禍向けの財政支援策などを 2020 年で終了させており、これが成長率の見通しの格差につながっている。感染力の強いウイルス出現などのリスクから全体的な成長率の見通しは下方に傾いているとしており、引き続き世界レベルで感染抑制と経済活動の両立を図りながら景気の回復を腰折れさせないことが必要となる。

コロナ禍で顕在化した経済面の格差は、1 国の成長率だけではなく、他の経済指標などでもみられる。日本と他国を比較した時に大きな差のみられる経済指標に消費者物価の伸びがある。先進国間で比較すると、米国の食料品・エネルギーを除く消費者物価（コア指数）は 2021 年初以降上昇基調で推移しており、対前年同月比で 6 月が +4.5%、7 月が +4.3% と高い伸びとなった。また、ユーロ圏も米国より水準は低いものの上昇基調で推移しており、飲食料・エネルギーを除く消費者物価（コア指数）は、対前年同月比で 6 月が

+0.9%、7 月が +0.7% の伸びとなった。一方、日本の 2020 年基準改訂後の生鮮食品を除く消費者物価（コア指数）の対前年同月比の伸び率は、6 月が $\Delta 0.5\%$ 、7 月が $\Delta 0.2\%$ となり、年初以降横ばいで推移した後 4 月以降マイナスが続いている。消費者物価の伸びがマイナスとなる状況は、日本だけにみられる際だった特徴である。

米国などでみられる消費者物価の高い伸びは、コロナ禍で繰り延べされていたペントアップ需要の顕在化や昨年度下落した資源価格の上昇などの一次的な要因に起因している。また、中長期的なインフレ期待は引き続き安定しており、中期的な消費者物価の伸び率は、各国が目標とするレンジに収束する可能性が高い。一方、2021 年 7 月公表の日本銀行の経済・物価情勢の展望によると、日本の生鮮食品を除く消費者物価の先行きは、対前年比で当面横ばいで推移した後、景気の回復やエネルギー価格の上昇などを背景として徐々に上昇率を高めていくものの 2023 年度で +1.0% の伸びにとどまり、2% の物価安定の目標を安定的に持続するまでには至らない見込みである。

米国では、消費者物価の高い伸びや雇用環境の改善などを受けて、連邦準備制度理事会（FRB）が 2021 年 7 月の連邦公開市場委員会（FOMC）の声明文で、雇用の最大化と物価の安定に向けて前進を遂げるまで量的金融緩和政策を継続するとして従来の方針について、経済は目標に向けて前進しており今後の会合でその進捗の評価を続けると表明した。具体的な明言は避けられているものの、経済状況を見極めて量的な金融緩和政策の正常化に向けた議論に着手していくとみられている。

米国の金融政策の転換は国際的な資金フローや金利、為替などの金融市場の変化を通して、世界経済にも少なからず影響を及ぼす。特にコロナ禍からの回復が遅れたり経済基盤が脆弱な新興国・発展途上国では、自国からの資金流出や為替の下落に直面する国も出てくるとみられる。日本はこのような影響を受ける可能性は低い一方、コロナ禍の物価の格差で改めて浮き彫りとなったデフレからの脱却が引き続き課題として残る。デフレの背景には構造的な問題など複層的な課題があり、コロナ禍からの回復と併せてそれらの課題に着実に取り組むことが必要である。